

# Oracle® Hyperion Disclosure Management

## Administrator's Guide

リリース 11.1.2.4

## 著作権情報

Oracle® Hyperion Disclosure Management Administrator's Guide, 11.1.2.4

Copyright © 2007, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

# 目次

ドキュメントのアクセシビリティについて .....	5
ドキュメントのフィードバック .....	6
<b>第1章. Disclosure Managementのデプロイおよび構成 .....</b>	<b>7</b>
前提条件 .....	7
Disclosure Managementコンポーネント .....	8
クライアント・コンポーネント .....	8
ドキュメントの管理 .....	10
コンテンツ管理 .....	10
検索 .....	11
Disclosure ManagementのFinancial Reporting, Smart View (APS)およびデータ・ソース のアクセスとの統合 .....	11
中間層サービス .....	11
データベース .....	12
Disclosure Management XBRLタクソノミ・デザイナー .....	12
サーバー構成オプション .....	13
XBRLタクソノミの登録 .....	13
タクソノミ・キャッシュ .....	21
多数のマッピングのインポートに対するiXBRLインスタンスの生成 .....	30
タクソノミ・マネージャ .....	31
新規タクソノミのアップロードおよび登録 .....	31
既存のタクソノミ登録の更新 .....	32
既存のタクソノミの削除 .....	32
登録済タクソノミの表示 .....	33
タクソノミ・リスト・ビューのリフレッシュ .....	33
既存のタクソノミのダウンロード .....	33
アクティブなタクソノミのアンロード .....	33
<b>付録A. Disclosure Managementサーバー・ログ .....</b>	<b>35</b>



---

# ドキュメントのアクセシビリティについて

---

Oracleのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

## Access to Oracle Support

Oracleサポート・サービスでは、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

---

# ドキュメントのフィードバック

---

このドキュメントへのフィードバックをお送りください: [epmdoc\\_ww@oracle.com](mailto:epmdoc_ww@oracle.com)

次のソーシャル・メディア・サイトでEPM情報開発をフォローできます:

LinkedIn - [http://www.linkedin.com/groups?gid=3127051&goback=.gmp\\_3127051](http://www.linkedin.com/groups?gid=3127051&goback=.gmp_3127051)

Twitter - <http://twitter.com/hyperionepminfo>

Facebook - <http://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642>

Google+ - <https://plus.google.com/106915048672979407731/#106915048672979407731/posts>

YouTube - <http://www.youtube.com/user/OracleEPMWebcasts>

# 1

## Disclosure Management のデプロイおよび構成

### この項の内容:

前提条件 .....	7
Disclosure Managementコンポーネント .....	8
サーバー構成オプション .....	13
タクソノミ・マネージャ .....	31

### 前提条件

Oracle Hyperion Disclosure Managementを使用するには、次のコンポーネントをインストールする必要があります:

- Disclosure Managementリリース11.1.2以降のインストールおよび構成
- Oracle Smart View for OfficeおよびDisclosure Management Microsoft Officeクライアント・コンポーネント(Office 2007またはOffice 2010)のインストールおよび構成
- Microsoft Internet Explorer 8以上
- Disclosure Managementは、Office 2007およびOffice 2013のすべてのエディションでサポートされています。



注:

Disclosure Managementクライアントを使用するには、Microsoft Officeのインストール時に、Microsoft WordおよびExcelに対する.NETのプログラマビリティ・サポートを選択します。



注:

Disclosure Managementのアップグレードが行われると、xbrldata.propertiesファイルが新しいバージョンで上書きされます。また、前のバージョンのバックアップ・コピーが、新しいバージョンと同じディレクトリ内に .bak 拡張子で自動的に作成されます。ただし、前のバージョン・ファイルからのカスタム設定が新しいバージョンによりマージまたは保持されることはありません。前のバージョンをカスタマイズした場合(プロキシ設定を変更した場合など)は、変更を新しいバージョンに手動で再適用します。

# Disclosure Managementコンポーネント

この項では、次のDisclosure Managementクライアントおよびサーバー・コンポーネントについて説明します:

- [8ページのクライアント・コンポーネント](#)
- [11ページの間層サービス](#)
- [12ページのデータベース](#)

## クライアント・コンポーネント

この項では、Disclosure Managementの次のクライアント・コンポーネントについて説明します:

- [8ページのMicrosoft OfficeのためのDisclosure Management XBRLアドイン](#)
- [8ページのDisclosure Managementマッピング・ツール](#)
- [11ページのSmart View \(APS\)およびデータ・ソースのアクセス](#)

## Microsoft OfficeのためのDisclosure Management XBRLアドイン

Microsoft Office用のDisclosure Managementアドインは、Microsoft Officeフレームワーク内(特にMicrosoft ExcelおよびWord)のすべての機能へのインタフェースを提供します。Disclosure Management XBRLアドインは、Smart View拡張APIを使用して、Microsoft Officeと統合し、EPMデータ・ソースからのメタデータにアクセスします。

## Disclosure Managementマッピング・ツール

Disclosure Managementマッピング・ツールは、タクソノミのアイテムと、OfficeドキュメントまたはOracle Hyperion Financial Reportingで選択されたデータ値間で情報をマップします。Disclosure Managementマッピング・ツールは、クライアント側のほとんどのユーザーの対話を処理する主要な部品です。Disclosure Managementマッピング・ツールはOfficeアプリケーション(Microsoft WordまたはExcel)のアドイン・コンポーネントで、Financial Reportingとバンドルされています。Disclosure Managementマッピング・ツールにより、タクソノミの選択、マッピングの管理、変数の追加、XBRLインスタンス・ドキュメントの検証を容易に実行できます。

Disclosure Managementマッピング・ツールでは:

- XBRLタクソノミをレンダリングし、マッピング機能を提供する
- ドックレットおよびマスター・ドキュメント内の変数を作成、編集および削除する機能を提供する
- クライアント側でのほとんどのユーザー対話を表示する
- OfficeアドインおよびFinancial Reportingで使用される
- すべてのクライアント・アプリケーションで統一されたユーザー・インタフェースを提供する
- タクソノミ検索機能を含める
- すべてのマッピングを確認および検証できる

Microsoft WordおよびExcelのアドインでは、次のマッピング機能を提供します:

- XBRLタクソノミ概念
- XBRLコンテキスト
- XBRL単位
- XBRL脚注
- グローバル変数

さらに、iXBRLフォーマットでドキュメントを生成することにより、同一ドキュメント内で、ユーザーが理解しやすいフォーマットでの送信の表示、およびマシンで読取り可能なフォーマットの維持が可能です。iXBRLドキュメントは、特別なXBRLタグが埋め込まれたHTMLドキュメントで、HTMLでのユーザーが理解しやすい部分と、XBRLでのマシンで読取り可能な部分が許可されます。

## レポート・マネージャ

Disclosure Managementレポート・マネージャのレポート・ライターでは、レポート・マネージャのインターフェースを使用して、マスター・ドキュメントおよびドックレットを使用したレポートの管理および生成が可能です。

マスター・ドキュメントは、ドックレットと呼ばれるサブドキュメントのコンテナ・ファイルとして機能します。マスター・ドキュメントのDisclosure Managementでは、マスター・ドキュメント機能を使用して、最後のレポートを次のレポートの開始点として利用できます。管理者はMicrosoft Wordでマスター・ドキュメントを使用して、最後のレポートを簡単にコピーし、Microsoft WordおよびExcelセクションをドキュメントに埋め込み、名前を変更してレポート・ビューを現在の期間または年に更新できます。登録されたMicrosoft Wordドキュメントは、マスター・ドキュメントとして使用できます。Disclosure Managementドキュメントは、1つ以上のドックレットが挿入されると、マスター・ドキュメントになります。ドックレットとは、マスター・ドキュメントに含める選択データを含む個別のMicrosoft WordまたはExcelファイルです。

レポート名とマスター・ドキュメント名は同じです。移行プロセス中、レポート名はユーザーによって指定されたマスター・ドキュメント名として自動的に割り当てられます。

### ▶ 移行

1. 現在の場所からDMマスター・ドキュメントを開きます
2. Disclosure Managementは移行が必要なことを認識し、ユーザーにプロンプト表示します
3. Disclosure Managementリボンで「**移行**」ボタンをクリックします
4. 移行すべきリポジトリ内の場所を選択します



注:

PS3からPS4に移行する前に、まずレポートをエクスポートします。

### ▶ 登録

1. Microsoft Wordで新しいマスター・ドキュメントを開きます
2. Disclosure Managementリボンで「**登録**」ボタンをクリックします
3. レポート名を指定します
4. マスター・ドキュメントをロードするリポジトリ内の場所を選択します

5. 使用するドキュメントをチェックアウトします

## ドックレットの管理

マスター・ドキュメントが移行または登録によってリポジトリに正常にロードされると、ドックレットがDisclosure Managementレポート・マネージャで管理されます。

## ドックレットの追加

ドックレットは「新規の追加」ボタンを使用して、レポート・マネージャによってマスター・ドキュメントに追加されます。

「新規の追加」ボタンをクリックした場合、次のいずれかの場所からドックレットを選択できます。

- ファイル・システム - これが選択されている場合、これはリポジトリに保存されマスターに接続される正規の非DMドキュメント(Excel, Word)である必要があります。
- 他のマスター・ドキュメントまたはスタンドアロン・ドキュメントからのドックレットなど、DMリポジトリの他の場所
- マスター・ドキュメントにすることはできません
- ドックレット名は一意である必要があります

ドックレットの追加が終了したら、「完了」ボタンをクリックします。

## レポートとして保存

ドックレットは、「アクション」メニューの「レポートとして保存」を使用して、レポート・マネージャによってスタンドアロン・レポートとして保存できます。

「レポートとして保存」ボタンをクリックする場合は、レポートを保存する場所をDMリポジトリから選択する必要があります。DMレポートは、ファイル・システムまたは他の非DM上の場所には保存できないことがあります。

## コンテンツ管理

### ACL

管理者は、ドキュメントにACLを割り当てる必要がある場合があります。顧客は、ユーザーにフォルダ構造および構造内のドキュメントを見せないようにできる必要があります。たとえば、ユーザーは適切な権限がないため、フォルダ構造が存在することを知らない可能性があります。

ユーザーには、次の権限が割り当てられている必要があります:

- アクセス権なし
- 読取りアクセス権
- 書込みアクセス権
- アクセス権の削除

- 完全なアクセス権(ドキュメントの所有者)

ACLは伝播されません。たとえば、マスター・ドキュメントでACLを適用する場合、ドックレットには伝播しません。Disclosure ManagementのACLは、ドックレットやマスター・ドキュメントなどのアーティファクトにのみ適用されます。ACLはレポートには適用されません。

## 検索

フォルダ名およびドックレット名を検索するには、リポジトリ・エクスプローラを開き、名前を入力して<Enter>をクリックするか拡大鏡をクリックして、右上でクイック検索を実行します。

検索を絞り込むには、「**詳細検索**」をクリックして**名前**、**所有者**、**変更日**および**タイプ**で検索できます。

ファイル名をダブルクリックして、リポジトリを開きます。

## Disclosure ManagementのFinancial Reporting、Smart View (APS)およびデータ・ソースのアクセスとの統合

この項では、次の情報を提供します:

- [11ページのFinancial Reporting Webアプリケーション・サービス](#)
- [11ページのSmart View \(APS\)およびデータ・ソースのアクセス](#)

### Financial Reporting Webアプリケーション・サービス

Financial Reporting Webアプリケーションは、レポートおよびバッチを実行、保存およびスケジュールします。詳細は、『*Oracle Hyperion Financial Reporting, Fusion Edition管理者ガイド*』を参照してください。

### Smart View (APS)およびデータ・ソースのアクセス

Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion PlanningおよびOracle EssbaseなどのOracle Hyperionデータ・ソースからのデータは、Smart View Analytic Provider Services (APS)によってMicrosoft WordまたはExcelドキュメントにインポートされます。データがOfficeドキュメントにインポートされると、データ・ソース・メンバーをDisclosure Managementマッピング・ツールを介してXBRL概念に関連付けることができます。この関連付けが行われると、データ・ソース・メンバーがFinancial Reportingグリッドまたは他のOfficeドキュメントの一部である場合に、XBRL概念がデータ・ソース・メンバーから認識されます。このため、データ・ソースXBRLマップは1回関連付けられると、OfficeドキュメントおよびFinancial Reportingグリッドで再利用されます。

## 中間層サービス

Disclosure Management Webアプリケーションは、分散環境に存在する複数の中間層コンポーネントと対話します。この項では、最も重要な中間層コンポーネントに焦点を当てます:

- [12ページのDisclosure Management Webアプリケーション・サービス](#)
- [11ページのFinancial Reporting Webアプリケーション・サービス](#)

## Disclosure Management Webアプリケーション・サービス

J2EEベースのWebアプリケーションは、Disclosure Managementのほとんどのコンポーネントにサービスを提供します。このサービスは、クライアント・レイヤー・コンポーネント、その他の中間層サービスおよびデータ・ストレージ・コンポーネントと対話します。

## データベース

Disclosure Managementデータベース・ソースには、マッピング・レポートおよびOracle Hyperionデータ・ソースが含まれます:

- [12ページのマッピング・リポジトリ](#)
- [12ページのOracle Hyperionデータ・ソース](#)

## マッピング・リポジトリ

マッピング・リポジトリは、マッピング・ツールで作成されたXBRLタクソノミのマッピングの保存および取得を実行するサーバー側アプリケーションです。ユーザーがマッピングを作成、変更または削除すると、そのマッピングはマッピング・リポジトリに一貫して保存されます。ユーザーはマッピング・リポジトリからマッピングをロードまたは表示することはできません。

## Oracle Hyperionデータ・ソース

Disclosure Managementは、Oracle Hyperion Planning、Oracle Hyperion Financial ManagementおよびOracle EssbaseなどのEnterprise Performance Management (EPM)データ・ソースをサポートします。データ・ソースを再利用して、Oracle Smart View for OfficeによってMicrosoft WordまたはExcelドキュメントにインポートできます。

Enterprise Resource Planning (ERP)システムなどのEPM以外のソースのデータも、Microsoft WordまたはExcelにインポートした場合は使用できます。

## Disclosure Management XBRLタクソノミ・デザイナー

Disclosure Management XBRLタクソノミ・デザイナーは、XBRLタクソノミの構築、拡張およびメンテナンスのためのデスクトップ・アプリケーションです。Disclosure Management XBRLタクソノミ・デザイナーのユーザー・インターフェースは、タクソノミの参照時に同期を保ちながら、概念の関係、計算、言語、プロパティを含む複数のビューを提供します。Disclosure Management XBRLタクソノミ・デザイナーは、ディメンションとタプルを含む最新のXBRL 2.1仕様をサポートします。

Disclosure Management XBRLタクソミ・デザイナーは、Disclosure Managementアプリケーションとともにインストールされます。詳細は、Disclosure Management XBRLタクソミ・デザイナーのオンライン・ヘルプを参照してください。

## サーバー構成オプション

この項では、Disclosure Managementサーバー構成オプションについて説明します：

- [13ページのXBRLタクソミの登録](#)
- [13ページのタクソミのダウンロード](#)

## XBRLタクソミの登録

XBRLタクソミをDisclosure Management Webアプリケーション・サーバーに登録する必要があります。登録した後、Disclosure Managementマッピング・ツールでタクソミにアクセスして、XBRLインスタンス・ドキュメントをマッピングおよび生成できます。登録されたタクソミは、XBRL仕様に依拠して有効で、タクソミの依存関係を含めるか、正しく参照する必要があります。登録されたタクソミは、クライアント・コンポーネントですべてのDisclosure Managementユーザーが使用可能です。Disclosure Managementのインストール後、管理者は手動でXBRLタクソミをダウンロードし、DISCMAN\_INSTANCE/configフォルダにあるmappingtool.propertiesファイルを構成する必要があります。



注：

「Disclosure Managementマッピング・ツール」ページでは、タクソミのバージョンをわかりやすい方法で管理できる「タクソミ・マネージャ」ボタンが用意されています( [31ページのタクソミ・マネージャ](#)を参照)。次の手順で説明する別の方法を使用することもできます。



注：

管理者は、Disclosure Managementマッピング・ツールで使用するタクソミをインストールおよび登録する必要があります。

## タクソミのダウンロード

通常、公式のXBRLタクソミは、タクソミの公式サイトなどでダウンロードします：[www.xbrl.org](http://www.xbrl.org)

必要なタクソミは、通常、規制機関から使用できます。タクソミをダウンロードする手順を示す規制機関の命令およびWebサイトを常に参照する必要があります。

- <http://www.xbrl.us> - USタクソミ
- <http://www.iasb.org/XBRL/IFRS+Taxonomy/IFRS+Taxonomy.htm> - IFRSなどの現在のIFRSタクソミ

## タクソミの抽出

タクソミは、Webアプリケーションをホストするコンピュータに格納および登録されます。通常、タクソミは圧縮ファイル・フォーマットでダウン登録されます。タクソミを解凍する際は、タクソミ・ファイルのフォルダ構造を維持する必要があります。

▶ タクソミを抽出する手順は次のとおりです:

1. Disclosure Managementフォルダに既存タクソミがない場合、DISCMAN\_INSTANCE/XbrlFiles フォルダを検索します。
2. タクソミ・ファイルをDISCMAN\_INSTANCE/XbrlFiles フォルダに解凍します。

フォルダ構造が維持されることを確認します。

3. Disclosure Management Webアプリケーションに、XbrlFilesフォルダおよびそのファイルの読取りアクセス権があることを確認します。

## タクソミの拡張

タクソミを拡張するには、スタンドアロン・クライアント・アプリケーションであるDisclosure Management XBRLタクソミ・デザイナーでタクソミを作成または編集します。Disclosure Management XBRLタクソミ・デザイナーは、完全な機能を備えた、タクソミおよびインスタンス作成ツールです。Disclosure Management XBRLタクソミ・デザイナーには、単一のタクソミ使用パターンおよび参照内のタクソミ使用パターンならびに検証機能を使用して複雑なタクソミを管理するための、堅牢な作成、編集および検証を行う一連の機能が組み込まれています。タクソミ・デザイナーを使用して、次を実行できます:

- 概念の作成または概念名の変更による、財務状況の命名法への緊密な準拠
- 概念のデータ型、残高および期間タイプの変更
- 概念の関係の変更
- タクソミの保存場所のファイル・パスの変更

タクソミを変更した後、XBRLタクソミの登録の説明にしたがって [13ページのXBRLタクソミの登録](#)に登録できます。

## XBRLタクソミ構造の登録および表示

Disclosure Management Webアプリケーションをインストールすると、mappingtool.propertiesと呼ばれるプロパティ・ファイルがDISCMAN\_INSTANCE/configフォルダに保存されます。DISCMAN\_INSTANCEは、Disclosure Management Webアプリケーションがインストールされたコンピュータに付属します。

Disclosure ManagementサーバーのXbrlFileフォルダでのタクソミ・ファイルの解凍が完了すると、Disclosure Managementにタクソミが登録および認識され、Disclosure Managementマッピング・ツールにリストされます。(たとえば、クライアントにDISCMAN\_INSTANCEフォルダはありません。)



注:

mappingtool.propertiesファイルは、任意のテキスト・エディタで表示および編集できます。



注:

mappingtool.propertiesではASCII以外の文字はサポートされていません。ASCII以外の文字を使用するには、Unicodeフォーマット(¥u00D2など)を使用します。

mappingtool.propertiesファイルには、次のプロパティが含まれます:

- taxonomy\_#.prefix
- taxonomy\_#.entryPoint\_#
- taxonomy\_#.label\_#
- taxonomy\_#.extLinkLabel\_#
- taxonomy\_#.created\_#
- taxonomy\_#.lastModified\_#
- taxonomy\_#.package\_#
- taxonomy\_#.schemaRef\_#



注:

#は数値のプレースホルダを示します。前述のプロパティは大文字/小文字を区別します。

## タクソノミ・プロパティの例

この例では、mappingtool.propertiesファイルの指定を示します。4つのタクソノミが登録されます:

- US GAAP 2014
- US GAAP 2013
- US GAAP 2013タクソノミのOracle拡張(カスタム・タクソノミ)
- IFRS 2014

US GAAP 2014タクソノミでは、5つのエントリ・ポイントが定義されますが、次のスキーマに基づいて、Disclosure Managementマッピング・ツールでは2つのみが表示されます(「バンキングおよび貯蓄」と「商用および産業用」)。US GAAP 2013タクソノミでは、3つのエントリ・ポイントが表示されます(「バンキングおよび貯蓄」、「商用および産業用」、および「不動産」):

```
taxonomy_1.prefix=us-gaap-2014
taxonomy_1.entryPoint_1=XBRLUSGAAP/ us-gaap-2014-01-31/entire/us-gaap-entryPoint-std-2014-01-31.xsd
taxonomy_1.label_1=US GAAP 2014
```

```
taxonomy_2.prefix=us-gaap-2013
taxonomy_2.entryPoint_1=XBRLUSGAAP/ us-gaap-2013-01-31/entire/ us-gaap-entryPoint-std-2013-01-31.xsd
```

```
taxonomy_2.label_1=US GAAP 2013
```

```
taxonomy_3.prefix=orcl-20140531  
taxonomy_3.entryPoint_1=oracle-20140531/orcl-201405431.xsd  
taxonomy_3.label_1=Oracle Q4 2014
```

```
taxonomy_4.prefix=orcl-20140831  
taxonomy_4.entryPoint_1= oracle-20140831/orcl-20140831.xsd  
taxonomy_4.label_1=Oracle Q1 2015
```

## mappingtool.propertiesファイルの表示

mappingtool.propertiesファイルには次のプロパティがあります:

- [16ページのentryPoint\\_#](#)
- [17ページのlabel\\_#](#)
- [17ページのextLinkLabel\\_#](#)
- [17ページのschemaRef\\_#](#)
- [18ページのpackage\\_#](#)
- [18ページのunformatted](#)
- [19ページのoverridable/unoverridable](#)
- [18ページのformatted](#)

## 接頭辞

Disclosure Managementマッピング・ツールのユーザー・インタフェースおよびインスタンス・ドキュメントでは、接頭辞またはショート名が使用されます。接頭辞の値には、次の特性が必要です:

- 一意の値である - 複数のタクソノミで同じ接頭辞を使用できない
- 文字またはアンダースコアで始まる
- スペースを含まない
- 短い - インスタンス・ドキュメント内で繰り返し使用されるため

## entryPoint\_#

タクソノミのエントリ・ポイントは、DISCMAN\_INSTANCE/XbrlFilesフォルダに関連する、タクソノミの.xsdファイルへのパスです。

タクソノミには、複数のエントリ・ポイントを設定できます。管理者は、Disclosure Managementマッピング・ツールでどのエントリ・ポイントが登録および表示されるかを制御できます。たとえば、US GAAPタクソノミには5つのエントリ・ポイントがありますが、管理者は3つのみを登録することを選択できます。通常、タクソノミをダウン登録するWebサイトには、タクソノミのエントリ・ポイントの詳細が含まれています。

xsdファイルのパスでは、パス区切り文字として/を使用します。また、¥¥も使用できますが、単一の¥は使用できません。次に例を示します：

表1 entryPoint\_#

エントリ	結果
us-gaap/ci/us-gaap-ci-all.xsd	有効
us-gaap\\ci\\us-gaap-ci-all.xsd	有効
us-gaap\ci\us-gaap-ci-all.xsd	無効

## label\_#

label\_#は、エントリ・ポイントに関連する、ユーザーにわかりやすいラベルです。

ラベルはDisclosure Managementマッピング・ツールのユーザー・インタフェースに表示されます。

各エントリ・ポイントの値には、対応するラベル・エントリを設定する必要があります。

## extLinkLabel\_#

管理者は、タクソノミの拡張リンクに表示される、拡張リンクのラベル値を指定できます。次の2つの値があります：titleまたはdefinition。拡張リンクの値は、mappingtool.propertiesのextLinkLabel\_1=[definition] [title]プロパティに定義されます。いずれかの値が使用できない場合は、もう一方の値が使用されます。たとえば、値がdefinitionに設定されていて、タクソノミのラベルがtitleのみの場合は、titleが使用されます。このプロパティはオプションです。このプロパティが指定されていない場合に使用されるデフォルト値は"definition"です。

## schemaRef\_#

インスタンス・ドキュメント内のスキーマ名(schemaRefプロパティ)は、mappingtool.propertiesに指定されたschemaRef\_#値によって決まります。この情報はタクソノミ自体では提供されないため、管理者がschemaRefプロパティを提供する必要があります。このプロパティのパターンは次のとおりです：  
schemaRef\_#[SomeTaxonomyURI]

schemaRefプロパティを指定する際に、次の点に注意してください：

- 通常、schemaRefプロパティは、インスタンス・ドキュメントで参照されるタクソノミのエントリ・ポイントのURIです。SECでは、schemaRefプロパティがタクソノミ・ファイル名のみを指すことを要求しています (orcl-20100831.xsdを参照)。ただし、UK-IFRSでは、完全なURIを使用する必要があります(たとえば、<http://www.xbrl.org/uk/ifrs/core/2009-09-01/uk-ifrs-full-2009-09-01.xsd>)。
- このプロパティはオプションです。指定しない場合、対応するentryPoint\_#プロパティのスキーマ値が使用されます。

Disclosure Managementは、インスタンス・ドキュメントで、複数のスキーマ参照(SchemaRef)宣言をサポートしています。たとえば、`schemaRef_#`パラメータ、および区切り文字として空白を使用し、`mappingtool.properties`ファイルに次のスキーマ参照宣言を指定できます: 3つの`schemaRef_#`値が空白で区切られています。

```
taxonomy_1.schemaRef_1=http://www.svs.cl/cl/fr/ci/2011-04-26/cl-  
ci_shell_2011-04-26.xsd http://www.svs.cl/cl/fr/ci/2011-04-26/cl-ci_ias-1_2010-04-30/  
cl-ci_ias-1_2010-04-30_role-210000.xsd http://www.svs.cl/cl/fr/ci/2011-04-26/cl-  
ci_ias-1_2010-04-30/cl-ci_ias-1_2010-04-30_role-110000.xsd
```

## package\_#

`package_#`プロパティは、Microsoft ExcelまたはWordから「XBRLの生成」オプションが選択された場合に、タクソノミ・ファイルを含めるかどうかを決定します。このプロパティが有効になっている場合、Disclosure Managementにより、Disclosure ManagementサーバーにXBRLインスタンス・ドキュメントが生成され、圧縮ファイル(拡張子`dmr`)内に追加のドキュメントが含まれます。`dmr`ファイルは、クライアント・マシンにシリアル化され、(ユーザーが指定したとおりに)ファイル・システムに保存されます。パッケージ・プロパティが`false`の場合、Disclosure Managementは、`dmr`ファイル内に従属タクソノミ・ファイルを含めません。Disclosure Managementは、XBRLインスタンス・ドキュメントと、その他いくつかのプロパティ・ファイルのみを含めます。

`package_#`プロパティには、ブール・フラグ値が使用されます:

- ブール値`true`は、タクソノミ・ファイルがパッケージされることを示します。
- ブール値`false`は、タクソノミ・ファイルがパッケージされないことを示します。

このプロパティはオプションです; 指定しない場合、デフォルトは`true`です。

## formatted

`formatted`プロパティは、指定したデータ型にリッチ・テキスト・フォーマットを自動適用する場合に使用します。

各データ型は空白で区切り、次のように表す必要があります: `xsd_target_namespace#dataType`。プロパティのパターンは次のとおりです: `taxonomy_#.formatted=[空白で区切られたデータ型]`

たとえば、データ型が`textBlockItemType`の概念で`taxonomy_1`に対して常にリッチ・テキスト・フォーマットを使用することを指定するには、次のエントリを追加します: `taxonomy_1.formatted=http://xbrl.us/us-types/2009-01-31#textBlockItemType`

このプロパティはオプションです。指定しない場合、常にプレーン・テキスト・フォーマットが使用されます。

## unformatted

`unformatted`プロパティは、指定したデータ型にプレーン・テキスト・フォーマットを自動適用する場合に便利です。

各データ型は空白で区切り、次のように表す必要があります: `"xsd_target_namespace#dataType"`。プロパティのパターンは次のとおりです: `taxonomy_#.formatted=[空白で区切られたデータ型]`

たとえば、データ型がtextBlockItemTypeの概念でtaxonomy\_1に対して常にプレーン・テキスト・フォーマットを使用することを指定するには、次のエントリを追加します: taxonomy\_1.unformatted=http://xbrl.us/us-types/2009-01-31#textBlockItemType

このプロパティはオプションです。指定しない場合、プレーン・テキスト・フォーマットが使用されます。

## overridable/unoverridable

mappingtool.propertiesファイルで、特定の概念タイプのoverride機能を有効または無効にできます。overridableおよびunoverridableプロパティは、「確認」タブの指定されたタイプとその派生タイプの概念に基づいて、すべてのファクトの上書きを可能にするかどうかを管理します。

mappingtool.propertiesファイルのリストの各アイテムは、次の形式にする必要があります: <target-namespace>#<dataTypeName>

オーバーライド設定を有効にするすべてのデータ型を列挙する必要はありません。通常、データ型は階層に編成されるため、共通の親タイプにオーバーライド設定を指定します。たとえば、次のように入力すると、decimalItemTypeとその子のオーバーライド設定を有効にできます: taxonomy\_1.overridable\_1=http://www.xbrl.org/2003/instance#decimalItemType

この場合、decimalItemTypeから継承された全タイプの概念に基づくすべてのファクト(numeric、monetaryまたはvolumeItemTypeなど)がオーバーライドされます。

また、次のようにすると、タクソノミ固有の設定に加え、グローバル・オーバーライドも設定できます: global.overridable=http://www.xbrl.org/2003/instance#decimalItemType http://www.xbrl.org/2003/instance#booleanItemType http://www.xbrl.org/2003/instance#dateItemType

unoverridable設定を使用すると、階層内のタイプをオーバーライドする機能を無効にできます。たとえば、US GAAP拡張でフォーマットされたアイテムをオーバーライドする機能を無効にする場合は、次のように指定します: taxonomy\_1.unoverridable\_1= http://xbrl.us/us-types/2009-01-31#textBlockItemType

## addlinkbases

拡張タクソノミに概念のドキュメントを追加するには、addlinkbasesプロパティを使用します。ドキュメントは、作成される概念の実際の意味を表します。addlinkbasesプロパティは、登録されたタクソノミに添付する1つ以上のリンクベースを、空白で区切ったリストで指定することにより設定します。リストされているリンクベースはドキュメント専用ではありませんが、現在サポートされている唯一のリソースです。

次に、SECフィルタにより拡張タクソノミに添付される可能性のある、最も一般的なドキュメントを示します:

表2 ドキュメント・リンクベース

ドキュメント・リンクベース	ファイルの場所
2014 US GAAP	<a href="http://xbrl.fasb.org/us-gaap/2014/elts/us-gaap-doc-2014-01-31.xml">http://xbrl.fasb.org/us-gaap/2014/elts/us-gaap-doc-2014-01-31.xml</a>

ドキュメント・リンクベース	ファイルの場所
2014 DEI	<a href="http://xbrl.sec.gov/dei/2014/dei-doc-2014-01-31.xml">http://xbrl.sec.gov/dei/2014/dei-doc-2014-01-31.xml</a>
2013 US GAAP	<a href="http://xbrl.fasb.org/us-gaap/2013/elts/us-gaap-doc-2013-01-31.xml">http://xbrl.fasb.org/us-gaap/2013/elts/us-gaap-doc-2013-01-31.xml</a>
2013 DEI	<a href="http://xbrl.sec.gov/dei/2013/dei-doc-2013-01-31.xml">http://xbrl.sec.gov/dei/2013/dei-doc-2013-01-31.xml</a>

ここにあるリンクベースは排他的ではありません。その他複数のドキュメント・リンクベースが、US GAAPタクソノミで使用可能です。addlinkbasesプロパティでは、大文字と小文字が区別されます(ファイル名は、小文字のみにする必要があります)。また、Disclosure Managementサービスは、mappingtool.propertiesファイルが変更されると、通常、再起動されます。

次の例では、タクソノミorcl-20101130は、2009 US GAAP拡張タクソノミです。2つのドキュメント・リンクベースが添付されます(たとえば、1つはUS GAAP概念で、もう1つはDEI (ドキュメントおよびエンティティ情報)概念など)。2つのリンクベースの追加によって、マッピング・ツールでUS GAAP概念またはDEI概念を選択した場合、(使用可能な)ドキュメントが表示されます。2つのリンクベースは、空白で区切られています:

```
taxonomy_1.prefix=Oracle
```

```
taxonomy_1.addlinkbases=http://taxonomies.xbrl.us/us-gaap/2009/elts/us-gaap-doc-2009-01-31.xml
```

```
http://taxonomies.xbrl.us/us-gaap/2009/non-gaap/dei-doc-2009-01-31.xml
```

```
taxonomy_1.label_1=Oracle 10-Q 20101130
```

```
taxonomy_1.entryPoint_1=orcl-20101130/abc-20101130.xsd
```

## 単位タイプ・リストの構成

Disclosure Managementマッピング・ツールで単位を作成する際に表示される単位または通貨のリストは、mappingtool.propertiesファイルで導入および設定されます。単位タイプは、「メジャー」フィールドで使用できます。単位タイプ・コードはISO (International Organization for Standardization) 4217基準に準拠しています。mappingtool.propertiesファイルでは、現在の単位値は次のとおりです:

- unit\_type1=shares
- unit\_type2=pure
- unit\_type3=iso4217:AED
- unit\_type4=iso4217:AUD
- unit\_type5=iso4217:CAD
- unit\_type6=iso4217:CAF
- unit\_type7=iso4217:SGD
- unit\_type8=iso4217:USD

- unit\_type9=iso4217:DEM
- unit\_type11=iso4217:NZD
- unit\_type12=iso4217:PLN
- unit\_type13=iso4217:EUR

単位タイプを作成する場合、デフォルトの単位タイプ・コードは次のとおりです: unit\_type8=iso4217:USD。

▶ 単位タイプを追加または変更するには:

1. DISCMAN\_INSTANCE/configフォルダのmappingtool.propertiesファイルに移動します。
2. 任意のテキスト・エディタを使用して、mappingtool.properties プロパティ・ファイルを開きます。
3. #the unit type sectionsにスクロール・ダウンします。
4. 次のフォーマットで新規単位を追加します: unit\_type[number]=iso4217:[currency code]。

通貨コードは2文字の国コードと、通貨単位を示す1文字で構成されます。

5. mappingtool.propertiesファイルを保存します。

単位タイプは確認モードで確認されます。

## XBRLタクソノミへの更新

管理者がDisclosure Managementのサービスを停止して再起動すると、Webアプリケーションは、mappingtool.propertiesファイルを調査し、次の変更を検出します:

- 新しいタクソノミが追加(登録)されました。
- タクソノミ・ラベルまたは接頭辞が変更されました。
- 既存のタクソノミの内容が変更されました。
- 以前に登録されたタクソノミが除去されました。

## タクソノミ構造の表示

「タクソノミの選択」ペインにより、登録されたタクソノミの構造をDisclosure Managementマッピング・ツールで表示できます。「タクソノミの選択」ペインに、タクソノミがアルファベット順に表示されます(大文字と小文字を区別)。

## タクソノミ・キャッシュ

Disclosure Managementでは、メモリーに登録されたタクソノミのライフサイクルを管理するタクソノミ・キャッシュ・システムが用意されています。タクソノミ・キャッシュ・システムは、様々なプロパティを使用して調整できます。

## 概要

Disclosure Management Webアプリケーションは、Disclosure Managementシステムに登録されたXBRLタクソノミのロードとアンロードを管理します。XBRLタクソノミは非常に大きいため、Javaプロセスで使用可能なメモ

リー・リソースを大量に使用する可能性があります。また、タクソミが(メモリーに)ロードされるたびに、パフォーマンスに影響を及ぼします。Disclosure Managementでは、メモリーにロードされたタクソミをタクソミ・キャッシュ・システムで保持し、タクソミ・リソースに対する後続のリクエストでは、タクソミから再ロードするかわりに、キャッシュから導入できます; タクソミ・システムは、次のように動作します:

- 起動時に、タクソミ・ブローカが登録済のタクソミ・リストを `mappingtool.properties` ファイルから読み取りま
- す。
- タクソミ・キャッシュ・オブジェクトは、登録されたタクソミごとに作成されます。これは、タクソミが現時点で
- ロードされている(タクソミのロードがオン・デマンドで行われる)ことを意味するわけではありません。
- ユーザーが特定のタクソミをリクエストすると、タクソミ・ブローカが対応するタクソミ・キャッシュ・オブジェクト
- をチェックします:
  - タクソミがすでにロードされている場合は、キャッシュされたタクソミが提供され、リクエストが処理されます。
  - タクソミがロードされていない場合は、タクソミはメモリーにロードされます。(この場合、ユーザー・リクエストの
  - 処理の前にタクソミのロードのためのオーバーヘッドが必要となります。)
- ユーザー・リクエストが処理されると、ロードされたタクソミはメモリーに残されます。ロードされたタクソミに対する
- 後続のリクエストは、キャッシュで処理されます。
- キャッシュされたタクソミに対するリクエストがあると、タイムスタンプが登録され、そのタクソミに対する最終ア
- クセス時間が決定されます。
- タクソミのタイムスタンプはその後、タクソミをアンロードする安全なタイミングの決定に使用されます。
- 一定の条件が満たされると、タクソミはメモリーからアンロードされます。このアクションにより、関連するリソース
- がWebアプリケーションからリリースされます。

特定のタクソミをアンロードするかどうかを決定する条件は次のとおりです:

1. 使用可能なメモリー - Java Virtual Machine (JVM)で使用可能なメモリーが一定のしきい値に達すると、一
- 定のメモリー量が戻るまで、最後に使用したタクソミがアンロードされます。
2. 未使用のタクソミ - ロードされたタクソミが最後に使用またはアクセスされてから一定の時間が経過すると、
- タクソミはアンロードされます。
3. ロードされるタクソミの最大数 - ロードされたタクソミの数が指定のしきい値に達した場合、またはこれを超過
- した場合、最も使用率の低いタクソミが自動的にアンロードされます。

## タクソミ・キャッシュ・ポーリング機能

タクソミがメモリーにロードされると、ポーリング機能が提供され、タクソミをアンロードするタイミングが決定されま

す。ポーリング・システムは次のように動作します:

- タクソミ・キャッシュ・オブジェクトでリクエストが作成されるたびに、タイムスタンプが登録され、タクソミの最終
- アクセス時間が決定されます。
- タイムスタンプはその後、タクソミ・キャッシュ・オブジェクトがアンロード候補になる時期の決定に役立ちま
- す。Disclosure Managementでは、「最も使用率が低い」、すなわちLRUキャッシュ・アルゴリズムが適用されま
- す。
- Disclosure Managementにより、(メモリーに)ロードされたタクソミのあるタクソミ・キャッシュ・オブジェクトの
- ポーリングを担当する2つのスレッドが起動されます。

- 最初のスレッドは60秒ごとに自動的に実行されます。JVMに使用可能な空きメモリー容量が (Runtime.freeMemory() Java APIを使用して)テストされます。空きメモリー容量が1MB未満の場合、Disclosure Managementでは、Disclosure Managementで1MBを超えるメモリーが解放されるまで、最も使用率の低いタクソミ・キャッシュ・オブジェクトが自動的にアンロードされます。
  - 2つ目のスレッドは、ユーザーが(taxonomy\_cache\_pollプロパティを使用して)定義した間隔で実行されます。このスレッドが有効な場合は、(ロードされたタクソミのある)タクソミ・キャッシュ・オブジェクトがポーリングされ、タクソミをアンロードするかどうかを決定する3つのテストが実行されます:
    - **使用可能なメモリー** - JVMで使用可能なメモリー容量が一定のしきい値に達すると、一定のメモリー容量が戻るまで、最も使用率の低いタクソミがアンロードされます。これは、前述の最初のスレッドで実行したテストと同じです。このテストの詳細は、[23ページのJVMメモリーしきい値](#)を参照してください。
    - **未使用のタクソミ** - ロードされたタクソミが最後に使用またはアクセスされてから一定の時間が経過すると、タクソミはアンロードされます。
    - **ロードされるタクソミの最大数** - ロードされたタクソミの数が、ユーザーが指定したしきい値に到達または超過すると、最も使用率の低いタクソミが自動的にアンロードされます。
- このプロセスの詳細は、[24ページのロードされるタクソミの最大しきい値](#)。

## キャッシュのポーリング間隔

キャッシュのポーリング間隔プロパティは、キャッシュされたタクソミを検査し、タクソミがアンロードされたかどうかを判断する頻度または間隔を示します。ファイルにあるこのプロパティの名前: taxonomy\_cache\_poll。

このプロパティの設定には、次のものが含まれます:

- **値** - このプロパティの値は、分を表す整数で指定します。
- **デフォルト** - デフォルト値は5分です。たとえば、プロパティを'taxonomy\_cache\_poll=5'に設定すると、メモリーにロードされたすべてのタクソミを5分ごとにポーリングします。5分ごとにスレッドが実行され、その後でスレッシュホールド・テスト(後述)が実行されます。最大値(10時間)より長い間隔を指定した場合、Disclosure Managementはこのプロパティで指定された時間ではなく、10時間ごとにスレッドを起動します。
- **最大値**: システムの最大値は10時間です。
- **無効** - 値をゼロに設定すると、ポーリング機能が無効になります。この機能を無効にすることはお薦めしません。その他のキャッシュ・プロパティが、ポーリング機能が有効であることに依存しています。このプロパティが無効な場合、タクソミをアンロードできるのは、JVMメモリーしきい値を超過した場合、またはDisclosure Management Webアプリケーションを停止または再起動した場合のみです。

## JVMメモリーしきい値

JVM (Java Virtual Machine)メモリーしきい値は、ユーザーが設定できるものではありません。いずれかのキャッシュのポーリング・ルーチンが実行されると、Disclosure Management WebアプリケーションのJVMの、使用可能な空きメモリー容量をチェックする最初のテストが行われます。空きメモリー容量が1MB未満の場合は、空きメモリー容量がしきい値(1MB)を超えるまで、最も使用率の低いタクソミが自動的にアンロードされます。最も使用率の低いタクソミは、タクソミを最後に使用またはアクセスした際のタイムスタンプを検証して決定されます。タクソミが最後に使用されてから長時間が経過すると、アンロードされる可能性が高くなります。メモリー内に残る可能性が最も高いのは、直近に使用されたタクソミです。

## 直近の最も使用率の低いタクソミしきい値

直近の最も使用率の低いタクソミしきい値のプロパティでは、タクソミがアンロードされるまでに、最後にアクセスしてからの最長経過時間を示します。プロパティ・ファイルでは、このプロパティの名前は `taxonomy_cache_threshold` です。

このプロパティの設定には、次のものが含まれます:

- 値 - 分単位です。
- デフォルト - デフォルト値は30分です。たとえば、値を30に設定すると、ロードされたタクソミは、休止状態で最大で30分間キャッシュ(メモリ)内に保持された後、アンロードされます。新規ユーザーのリクエストによって、そのタクソミへのアクセスがあると、タイムスタンプがリセットされます。この例では、ユーザーのリクエストが30分間なれば、タクソミはアンロードされます。
- 無効 - 値をゼロに設定すると、この機能は無効になります。

## ロードされるタクソミの最大しきい値

ロードされるタクソミの最大しきい値のプロパティは、直近の最も使用率の低いタクソミがアンロードされるまでにキャッシュ(メモリ)にロードされるタクソミの最大数を示します。プロパティ・ファイルにあるこのプロパティの名前は、`max_taxonomy_cached` です。

このプロパティの設定:

- 値 - 正の整数として指定します。
- デフォルト - デフォルト値は10です。たとえば、値を10に設定すると、キャッシュ(メモリ)に残されるロードされたタクソミの数は10以下になります。キャッシュに10のタクソミがロードされ、11番目のタクソミのロードがリクエストされると、最も使用率の低いタクソミがアンロードされます。
- 無効 - 値をゼロに設定すると、この機能は無効になります。

最も使用率の低いタクソミは、タクソミが最後に使用またはアクセスされた時点のタイムスタンプを確認して決定されます。タクソミが最後に使用されてから長時間が経過すると、アンロードされる可能性が高くなります。メモリ内に残る可能性が最も高いのは、直近に使用されたタクソミです。

## UBmatrix XBRL処理エンジンの設定

Disclosure ManagementではUBmatrixのXBRL Processing Engine (C) (XPE)をXBRL処理の大部分に対するバックエンド・エンジンとして使用します。XPEでは、Disclosure ManagementでXBRLドキュメントを処理および作成するための豊富なAPIを提供しています。Disclosure ManagementではWebアプリケーション内でXPEを使用します。次の項では、パフォーマンスのためにXPEで表示される設定およびXBRLドキュメントのキャッシュについて説明します。

XPEの主要なパフォーマンスとキャッシュ設定は、次のサイトを参照してください: [http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3\\_5/](http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3_5/)。

このサイトはMicrosoft Internet Explorerを使用して参照してください。このドキュメントのMozilla Firefoxでの表示については、既知の問題があります。

XPEオンライン・ドキュメントでは、XPEパフォーマンス・チューニングの詳細が記載されていますが、次の設定に注意してください:

- XPE管理者ガイド - [http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3\\_5/Administrator\\_Guide.htm](http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3_5/Administrator_Guide.htm)
- XPEキャッシュ・オプション - [http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3\\_5/Caching/caching.htm](http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3_5/Caching/caching.htm)
- Webキャッシュの構成 - [http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3\\_5/Configuration/configuring\\_the\\_web\\_cache.htm](http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3_5/Configuration/configuring_the_web_cache.htm)
- JVMの構成 - [http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3\\_5/](http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3_5/)。

## XPEタクソミ・キャッシュ・オプション

XPEでは、3種類のキャッシュ・オプションが用意されています:

- プレロード - よく使用するタクソミを、XPEが開始されるたびにプレロードできます。これは、特定のタクソミを頻繁に使用する場合に便利です。XPEの開始後は、プレロードされたタクソミはメモリーにロードされており、処理可能になっています。[http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3\\_5/default.htm#Caching/Preload.htm](http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3_5/default.htm#Caching/Preload.htm)を参照してください。
- Webキャッシュ - 一部のタクソミには、ローカルに取得できない場合にインターネットでフェッチする必要がある、別のタクソミまたはXBRLドキュメントへの外部参照があります。XPEで取得された外部リソースは、次の必要に備えてローカルに保存されます。Disclosure ManagementのWebキャッシュ機能については、この後で説明します。[http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3\\_5/default.htm#Caching/web\\_caching.htm](http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3_5/default.htm#Caching/web_caching.htm)を参照してください。
- リダイレクト - XPEでは、外部タクソミ参照をローカルのリソースにリダイレクトするメカニズムが用意されています。この機能により、XPEがインターネットで外部タクソミ・リソースをフェッチすることなく、ローカルのリソースが使用されます。[http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3\\_5/default.htm#Caching/Redirection.htm](http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3_5/default.htm#Caching/Redirection.htm)を参照してください。

Disclosure Managementでの使用ポイントについて、次に示します:

- プレロード - タクソミのプレロードは一部のユーザーに役立ちますが、Disclosure Managementキャッシュ・システムでタクソミのロードおよびアンロードの管理を処理することをお勧めします。プレロードされたタクソミは、Disclosure Managementによって(前述のキャッシュ機能によって)最終的にアンロードされる可能性があります。そのため、この機能の使用はお勧めできません。
- Webキャッシュ - Webキャッシュは推奨のキャッシュ・メカニズムです。[25ページのXPEタクソミ・キャッシュの概要](#)を参照してください。
- リダイレクト - リダイレクトは信頼性が低く、設定が困難です。Disclosure Managementでは、リダイレクトを使用しないことをお勧めします。UBmatrixでは、リダイレクトではなくWebキャッシュをお勧めします。

## XPEタクソミ・キャッシュの概要

この項では、タクソミ・キャッシュ・フレームワークの概略について説明します。重要なのは、タクソミをロードしようとする際にXPEで採用される処理を理解しておくことです:

- 初期化すると、XPEはプレロードをドキュメント・キャッシュにロードします。
- (ドキュメント・キャッシュに存在しない)新しいタクソミのロードをリクエストすると、XPEは次のように処置します:

- 最初にWebキャッシュをチェックします。
- リクエストされたドキュメントがWebキャッシュにない場合、XPEは次の組込みリゾルバ設定を使用します:
  - ファイル・システム(ファイル・リゾルバ)でドキュメントを検索します。
  - Web (HTTPリゾルバ)でドキュメントを検索します。
  - その他のリゾルバを使用してドキュメントを検索します(いずれもDisclosure Managementには適用されません)。
- 組込みのリゾルバの場所(プレロードおよびリダイレクト)でドキュメントが見つからない場合、そのドキュメントのロードは失敗し、XPEによりエラーが生成されます。

XPEキャッシュ・フレームワークの詳細は、次を参照してください: [http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3\\_5/default.htm#Caching/How\\_does\\_document\\_caching\\_work.htm](http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3_5/default.htm#Caching/How_does_document_caching_work.htm)

## XPE Webキャッシュ

Webキャッシュは、Disclosure Managementでの使用をお勧めできる唯一のXPEタクソノミ・キャッシュ・メカニズムです。

通常、XPEは、Disclosure Managementシステムで、登録されたタクソノミをファイル・システムからロードします。Disclosure Managementに登録されたタクソノミは、管理者によってXbrlFilesフォルダにインストールされます。ほとんどのタクソノミは、オフィシャル・タクソノミ・リポジトリ(xbrl.orgなど)からダウンロードされた場合は内蔵されています。一部のタクソノミには、別のタクソノミまたはXBRLドキュメントへの外部参照があります。外部参照がある場合、XPEは外部参照を解決して外部ドキュメントを取得する必要があります。XPEがこれらの外部ドキュメントを検索する最初の場所は、ローカルのWebキャッシュ内です。ドキュメントがWebキャッシュにない場合は、ファイル・システムが検索され、最終的にはインターネットが検索されます(XPEからアクセス可能な場合)。

## Webキャッシュ・フォルダ

Webキャッシュは、XPEプロセスをホストするマシン上のフォルダです。Disclosure Managementの場合、これはDisclosure Management Webアプリケーションをホストするサーバー上にあります。具体的には、%DISCMAN\_HOME%\resources\System\cacheのWebキャッシュです。

XPEでXBRLリソース(外部ドキュメントまたはタクソノミ、あるいはその両方)をインターネットからフェッチする必要がある場合、ダウンロード・ファイルは自動的にWebキャッシュ・フォルダに保存されます。これにより、次回これらのドキュメントが必要になったときに、他の場所から取得を試みる前に、Webキャッシュ・フォルダが検索されます。XPEキャッシュ・フォルダの詳細は、[http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3\\_5/default.htm#Caching/How\\_does\\_web\\_caching\\_work.htm](http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3_5/default.htm#Caching/How_does_web_caching_work.htm)を参照してください。

## Webキャッシュの構成

リクエストされたXBRLドキュメントのXPEによるインターネットでのフェッチを使用可能にする必要がある場合、次のフォルダにあるxbrlData.propertiesファイルを変更します: %DISCMAN\_HOME%\lib\xbrlData.properties。

xbrlData.propertiesファイルでは、次のプロパティによってWebキャッシュ機能が制御されます:

- **WorkOffline** - XPEからインターネットへのアクセスが可能かどうかを制御します。このプロパティは、デフォルトではtrueに設定されます。このプロパティはtrueに設定することをお勧めしますが、特にサーバー環境では、一部のクライアントで、プロセスにインターネット・アクセスを許可しない場合があります。このプロパティをfalseに設定する場合、管理者は、登録したタクソミで使用されるすべてのXBRLドキュメントがWebキャッシュ・フォルダに含まれていることを確認する必要があります(詳細は後述を参照してください)。



注:

XPEが要求されたドキュメントにアクセスできず、このプロパティがfalseに設定されている場合、要求中のタクソミのロードに失敗します。[http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3\\_5/default.htm#Work\\_Offline.htm](http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3_5/default.htm#Work_Offline.htm)を参照してください。

- **useCache** - Webキャッシュ・フォルダの使用を有効または無効にします。このプロパティがFalseに設定されている場合は、Webキャッシュ・フォルダが完全に無効化されます。このプロパティをデフォルトでTrueに設定することを強くお勧めします。[http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3\\_5/Configuration/configuring\\_the\\_web\\_cache.htm](http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3_5/Configuration/configuring_the_web_cache.htm)を参照してください。
- **proxyHost** - XPEがインターネットにアクセス可能な場合に使用するプロキシを指定します。このプロパティの設定は、XPEのインターネット・アクセスのためにプロキシを使用する必要がある場合に重要です。デフォルトでは、このプロパティは存在しません。たとえば、Oracleネットワークで、次のプロキシ設定を指定できます:  
`proxyHost=www-proxy.us.oracle.com:80`。

[http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3\\_5/default.htm#Configuration/Configuring\\_a\\_proxy\\_server.htm](http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3_5/default.htm#Configuration/Configuring_a_proxy_server.htm)を参照してください。



注:

これらのいずれかのプロパティを変更した場合、XPEの再初期化が必要となり、Disclosure Management Webアプリケーションの再起動が必要です。

## Disclosure Managementの推奨する使用方法

この項では、XPE Webキャッシュ機能を使用するための、いくつかの使用事例を示します。

XPEは、`xbrlData.properties`ファイル内の`useCache`プロパティ(Disclosure Management Webサーバー上)がtrueに設定されている場合にのみ、外部WebリソースをWebキャッシュ・フォルダにコピーします。この設定により、XPEは、Webから取得した外部タクソミ・ファイルをDisclosure Management Webサーバー上のローカルWebキャッシュ・フォルダにコピーできます。また、この設定を行うと、インターネットからフェッチする前に、XPEは外部で参照されるタクソミ・リソースを必ずWebキャッシュ・フォルダで検索します。この場合、外部ファイルがWebキャッシュ・フォルダにコピーされるように、少なくとも一度、該当のタクソミを正常にレンダリングしておく必要があります。

それ以降、タクソミのレンダリングがリクエストされると、XPEはWebキャッシュ・フォルダで外部リソースを検索します; そのため、インターネット接続は不要になります。または、外部で参照されるタクソミ・ファイルを手動でWebキャッシュ・フォルダにコピーすることもできます。ただし、これらのファイルのフォルダ構造は、リソースの

ネームスペース・シーケンスに従う必要があるため、手動でのコピーは困難です。たとえば、外部ファイルのネームスペースが`http://external.com/2010/04/30/ExternalTaxonomy.xsd`である場合、次のフォルダ構造で`ExternalTaxonomy.xsd`をコピーします: `web cache folder]\http\external.com\2010\04\30` (`http`フォルダを含める必要があります)。これらのすべてのシナリオでは、`useCache`プロパティ(`xbrlData.properties`)が`true`に設定されていることが前提になっています。Webキャッシュ機能をオフにすることはお薦めできません。

## インターネット・アクセスの許可

最も簡単なソリューションは、XPEに対してインターネット・アクセスを許可して、外部参照XBRLドキュメントが自動的にダウンロードされ、Webキャッシュ・フォルダに保存されることです:

- (`xbrlData.properties`ファイルの)`workOffline`プロパティを`False`に設定します。
- `useCache`プロパティを`True`に設定します。
- 必要に応じて`proxyHost`プロパティにプロキシ・サーバーが含まれていることを確認します。

## WorkOffline

XPEのインターネットへのアクセスをブロックすることにより、サーバー環境のセキュリティが向上します。

- `workOffline`プロパティ(`xbrlData.properties`ファイル)を`true`に設定します。オフラインで作業する場合、管理者は、登録されているタクソノミのすべての外部参照XBRLドキュメントをWebキャッシュ・フォルダに保存する必要があります。
- `useCache`プロパティを`true`に設定して、Webキャッシュ・フォルダ内の必要なファイルを使用します。

このソリューションを使用する場合、管理者は、任意の種類ファイル転送技術(FTP、コピーおよび貼付けなど)を使用して、Webキャッシュ・フォルダに手動で書き込むことができます。フォルダ構造は、XBRLドキュメントのURIを表している必要があります。ファイルのURIは一見してすぐにわからない場合もあります。管理者はXBRLドキュメントをテキスト・エディタで開き、必要なフォルダ構造を確認する必要があります。

Webキャッシュ・フォルダ構造の詳細は、次を参照してください: [http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3\\_5/default.htm#Caching/How\\_does\\_web\\_caching\\_work.htm](http://docs.ubmatrix.com/webhelp/XPE/3_5/default.htm#Caching/How_does_web_caching_work.htm)。

## 一時インターネット・アクセスの提供

他には、XPEにインターネットへの一時アクセスを許可し、必要な外部XBRLファイルが自動的にWebキャッシュ・フォルダに(適切なフォルダ構造で)ダウンロードされるようにする方法があります。このソリューションを実装するには:

1. 前述の [28ページのインターネット・アクセスの許可](#) の項の説明に従い、XPEでのインターネット・アクセスを可能にします。
2. 必要に応じて、Disclosure Management Webアプリケーションを再起動します。
3. Disclosure ManagementアドインまたはOracle Hyperion Financial Reportingでは、外部XBRLリソースへのリンクを含むタクソノミをロードします。タクソノミが完全にレンダリングされたときには、外部参照XBRLドキュメントがWebキャッシュ・フォルダにダウンロードされています。

4. workOfflineプロパティ(xbrlData.propertiesファイル)をtrueに設定し、XPEのインターネット・アクセスを使用不可にします。
5. Disclosure Management Webアプリケーションを再起動します。



注:

これらのステップは、新しいタクソノミをDisclosure Managementシステムに登録する場合に必要です。

## フォルダ構造のコピー

別のソリューションとしては、開発環境で前述のとおりインターネット・アクセスを許可します。この環境では、管理者はWebキャッシュ・フォルダにキャッシュするタクソノミすべてにアクセスし、使用できます。必要なXBRLファイルがダウンロードされ、開発環境にインストールされた後で、管理者はWebキャッシュ・フォルダ全体を開発環境からコピーし、本稼働サーバーのWebキャッシュ・フォルダに配置できます。本稼働サーバーでは、workOfflineプロパティを永久的にオフに設定できます。29ページの表3では、次のworkOfflineプロパティについて説明します:

表3 workOfflineプロパティ

プロパティ	説明
True	XPEは、タクソノミ内で参照される外部XBRLリソースをインターネットでフェッチできません。このオプションの設定における危険性は、リソースがWebキャッシュ・フォルダにキャッシュされていない場合にXPEが問題のタクソノミを適切に処理しないことです。
False	XPEはインターネットにアクセスしてタクソノミ内で参照される外部XBRLリソースをフェッチできます。外部XBRLリソースが必要なとき、XPEは最初にWebキャッシュ・フォルダ内のリソースをチェックします。必要なリソースがない場合、インターネットでフェッチします。この設定では、XPEがインターネットに接続されていることが前提となっています。これには多くの環境で(Oracleなど)、HTTPプロキシの設定を示す必要があります(xbrlData.propertiesのproxyHostプロパティ)。これはデフォルトの設定です(Disclosure Managementをインストールする際にこのプロパティはFalseに設定されます)。ただし、一部の会社では、サービス(Disclosure Managementなど)によるインターネット・アクセスを許可しません。この場合、フォルダ構造のコピーは、実行可能なソリューションです。

## Webキャッシュでの登録済タクソノミの使用方法

XPEのWebキャッシュ機能を使用して、Webキャッシュに存在するタクソノミを登録でき、これは、基本タクソノミが一般的に使用されている場合に役立ちます。たとえば、US GAAPタクソノミに基づくタクソノミ拡張を使用している

とします。ほとんどの場合、使用されるのはUS GAAPタクソノミ拡張であり、基本US GAAPタクソノミ自体はまれにしか使用されません。

このシナリオでは、US GAAP基本ファイルをWebキャッシュ・フォルダに置くことをお勧めします。ただし、US GAAPタクソノミのコピーをWebキャッシュ・フォルダとXbrlFilesフォルダの2箇所に置くのではなく、Webキャッシュ・フォルダにUS GAAPタクソノミを置き、mappingtool.propertiesファイルにはエントリ・ポイントへの参照を置きます(タクソノミの登録の詳細は、[13ページのXBRLタクソノミの登録](#)を参照してください):

- 基本タクソノミ・ファイルをWebキャッシュ・フォルダにダウンロードします。必要なフォルダ構造を維持することが必要です。たとえば、2009 US GAAPタクソノミがWebキャッシュにインストールされた場合は、次のフォルダに入ります: %DISCMAN\_HOME%\resources\System\cache\http\taxonomies.xbrl.us\us-gaap\2009。
- mappingtool.propertiesを変更し、基本タクソノミの新規エントリ・ポイントからの相対パスが使用されるようにします。たとえば、前のステップを完了した後に2009 US GAAP商用および産業用のタクソノミを登録する場合は、次を指定します:

```
taxonomy_X.label_Y=Commercial and Industrial 2009
```

```
taxonomy_X.entryPoint_Y=../resources/System/cache/http/taxonomies.xbrl.us/us-gaap/2009/ind/ci/us-gaap-ci-stm-dis-all-2009-01-31.xsd
```



注:

taxonomy\_X.entryPoint\_Yプロパティの先頭に相対パス('../')が使用されていることに注意してください。

## 多数のマッピングのインポートに対するiXBRLインスタンスの生成

iXBRLインスタンス・ドキュメントの生成時または多数のマッピングのインポート時にパフォーマンスの問題が発生する場合は、Oracle HTTP Server (OHS)とOracle WebLogicアプリケーション・サーバー(WL)間のタイムアウト期間を長くします。

- ▶ iXBRLインスタンス・ドキュメントのタイムアウト期間を長くするには:
  1. 任意のテキスト・エディタで、EPM\_INSTANCE\httpConfig\ohs\config\OHS\ohs\_component\mod\_wl\_ohs.conf ファイルを開きます。
  2. /discmanwebservicesコンテキストで、WLIOWaitTimeoutSecsパラメータに比較的長い秒数を設定します。

たとえば、次に示すように、WLIOWaitTimeoutSecsを60000 (秒単位)に変更します:

```
        /discmanwebservices context
<LocationMatch ^/discmanwebservices/>
    SetHandler weblogic-handler
    WeblogicCluster
epbyminw0076.epmink.hyperion.com:8600,epbyminw0076.epmink.hyperion.com:8601
DynamicServerList OFF
WLIOWaitTimeoutSecs 60000
</LocationMatch>>
```

## タクソミ・マネージャ

タクソミ・マネージャを使用すると、ユーザーはMicrosoft Officeからタクソミを登録して管理できます。新規タクソミの登録、既存のタクソミの編集、タクソミ・プロパティの管理、オプションのアップロード、ダウンロードおよび削除などの機能があります。タクソミ・マネージャはDisclosure Managementリボン・バーからアクセス可能で、ログインに成功すると使用できるようになります。



注:

タクソミ・マネージャは、すべてのDisclosure Managementユーザーが使用可能です。

タクソミ管理の主な機能:

- 新規タクソミのアップロードおよび登録。
- プロパティの設定および変更
- 既存のタクソミの削除
- 既存のタクソミ登録の更新
- 登録済タクソミの表示
- タクソミ・リストのリフレッシュ
- 既存のタクソミのダウンロード

## 新規タクソミのアップロードおよび登録

サーバーを再起動せずに、新規タクソミをアップロードおよび登録できます。

▶ 新規タクソミをアップロードして登録するには:

1. 「Disclosure Management」ページで、「タクソミ・マネージャ」ボタンを選択します

。現在登録されているタクソミのツリー・ビューが表示されます。

2. 「タクソミ・マネージャ」ダイアログで、「新規」ボタンを選択します。「新規タクソミ登録」ダイアログが表示されます。
3. フィールド名をクリックして、次の情報を追加します

- **タクソミ・アップロード(.zipアーカイブ)**—「参照」ボタンをクリックして、ローカル・マシンからアップロードする新規タクソミ・バージョンを選択します。タクソミにより、確認用に「ファイル名」と「ファイル・サイズ」情報が表示されます。
- **エントリ・ポイント**—エントリ・ポイントをクリックして、zipファイル内のタクソミのxbrlファイル・フォルダおよびエントリ・ポイントを入力します。例: orcl\orcl-20130531.xsd
- **タクソミ名**—エントリ・ポイントに関連付けられたラベルを入力します。
- **フォルダ名**—フォルダ名を入力します。

▶ (オプション)追加のプロパティを設定または変更するには

1. 「新規」ボタンをクリックします。「プロパティの追加」ポップアップが表示されます。
2. 「すべて」または個別のプロパティを選択して、「OK」をクリックします。プロパティ・ラベルが「新規タクソミ登録」ダイアログに追加されます。

3. プロパティ値を追加します。



注:

タクソミ登録プロパティを削除するには、「削除」ボタンをクリックします。

4. 「保存」をクリックして、新規タクソミ登録をアップロードして保存します。

## 既存のタクソミ登録の更新



注:

既存のタクソミを更新する際に、サーバーを再起動する必要はありません。

### ▶ タクソミを更新するには:

1. 「Disclosure Management」ページで、「タクソミ・マネージャ」ボタンを選択します。「タクソミ・マネージャ」ページに、Disclosure Managementに登録されている現在のタクソミ・リストが表示されます。
2. 更新するタクソミを選択して、「編集」ボタンをクリックします。「タクソミ登録の更新」ダイアログが表示され、タクソミの更新済コピーのアップロードまたはプロパティの編集(あるいはその両方)を行うことができます。
3. タクソミ・ファイルを更新するには、フィールド名をクリックして値を入力し、次の情報を追加または編集します。

- タクソミ・アップロード(.zipアーカイブ)—「参照」ボタンをクリックして、ローカル・マシンからアップロードする新規タクソミ・バージョンを選択します。タクソミにより、確認用に「ファイル名」と「ファイル・サイズ」情報が表示されます。
- エントリ・ポイント—エントリ・ポイントをクリックして、zipファイル内のタクソミのエントリ・ポイントを入力します。例: orcl-20130531.xsd
- タクソミ名—エントリ・ポイントに関連付けられたラベルを入力します。
- フォルダ名—フォルダ名を入力します。

### ▶ (オプション)追加のプロパティを設定または変更するには

1. 「新規」ボタンをクリックします。「プロパティの追加」ポップアップが表示されます。
2. 「すべて」または個別のプロパティを選択して、「OK」をクリックします。プロパティ・ラベルが「タクソミ登録の更新」ダイアログに追加されます。
3. プロパティ値を追加します。



注:

タクソミ登録プロパティを削除するには、「削除」ボタンをクリックします。

4. 「保存」をクリックして、更新済のタクソミ登録をアップロードして保存します。

## 既存のタクソミの削除

タクソミ・マネージャから既存のタクソミを削除できます。

▶ 既存のタクソノミを削除するには:

1. 「Disclosure Management」ページで、「タクソノミ・マネージャ」ボタンを選択します。「タクソノミ・マネージャ」ページに、Disclosure Managementに登録されている現在のタクソノミ・リストが表示されます。
2. タクソノミのルート・ノードを選択して、「削除」ボタンをクリックします。選択したタクソノミがサーバーから削除されることを確認するダイアログが表示されます: タクソノミの登録を削除しますか?この操作を実行すると、このタクソノミがサーバーからアンロードされます。ログインして同じタクソノミを使用している他のユーザーがいないようにすることをお勧めします。
3. 「はい」を選択します。サーバーからタクソノミが削除されます。

## 登録済タクソノミの表示

どのタクソノミがタクソノミ・キャッシュに現在登録されているかを表示できます。

▶ 登録済タクソノミを表示するには:

1. 「Disclosure Management」ページで、「タクソノミ・マネージャ」ボタンを選択します。
2. 「リフレッシュ」ボタンをクリックします。

## タクソノミ・リスト・ビューのリフレッシュ

「タクソノミ・マネージャ」ペインで、「タクソノミ・マネージャ」ボタン()を選択して「リフレッシュ」ボタン()をクリックすると、Disclosure Managementのタクソノミ・リスト・ビューをリフレッシュできます。

## 既存のタクソノミのダウンロード

既存のタクソノミを更新する必要がある場合、クライアント・コンピュータにタクソノミをダウンロードできます。

▶ クライアント・コンピュータに既存のタクソノミをダウンロードするには:

1. 「Disclosure Management」ページで、「タクソノミ・マネージャ」ボタンを選択します。
2. タクソノミを選択して、「ダウンロード」ボタンをクリックします。「ファイルのダウンロード」ダイアログが表示されます:
3. 「保存」をクリックして、ダウンロード・プロセスを開始します。ファイルを開くダイアログ・ボックスが表示され、タクソノミ・アーカイブを保存する場所を選択できます。
4. 場所を選択して、「保存」をクリックします。

## アクティブなタクソノミのアンロード

サーバーのタクソノミ・キャッシュから、現在アクティブなタクソノミをアンロードできます。





# Disclosure Management サーバー・ログ

---

次のサーバー・ログは、MIDDLEWARE\_HOME/user\_projects/domains/EPMSysystem/servers/  
DisclosureManagement0/logs ディレクトリにあります:

- DisclosureManagement0.log - Disclosure Management Web層アクティビティ
- DiscMan.log - Oracle HyperionOracle Hyperion Disclosure Managementアクティビティ
- DiscManAuditService.log - 監査サービス・アクティビティ
- DiscManMappingTool.log - マッピング・ツール・アクティビティ
- DiscManReportService.log - レポート・サービス・アクティビティ
- DiscManRepository.log - リポジトリ・アクティビティ
- DiscManRepositoryService.log - リポジトリ・サービス・アクティビティ
- DiscManSessionService.log - セッション・サービス・アクティビティ

